

輸入植物に対する検疫の概況

外国から新しい病虫害等を侵入させないため、植物防疫所は、輸入される植物について①輸入禁止品に該当しないかどうか②輸出国の検疫証明書があるかどうか③病虫害の附着がないかどうかを調べ必要な検疫措置を講じている。このたび昭和53年の検疫実績がまとまったので、フィールドの病虫害に関係する部分を簡単にご紹介する。

輸入禁止品の発見と処分 禁止品の発見は、年間で34,953件にのぼり、全量廃棄した。違反が多いのは果実類で、これらからはしばしば我国が最も侵入を警戒しているチチュウカイミバエ、ミカンコミバエ、ウリミバエが発見されている。

検査で発見された我国未記録の病虫害 主なものをあげると次のとおりである。

発 見 病 害 虫	寄主植物発見回数	仕出国
(害 虫)		
<i>Hypera postica</i> (アルファルファソウムシ)	ザクロ(13)、セ ロリ(1)	アメリカ
<i>Dia brotica undecimpunctata</i> (ジュウイチホシウリハムシ)	レタス(1)、カ スミソウ(1)	アメリカ
<i>Phenacoccus colemani</i> (コナカイガラムシの1種)	ガランサス(1)	オランダ
<i>Estigmene acrea</i> (キシタゴマダラヒトリ)	ブドウ(1)	アメリカ
<i>Eurytoma maslovskii</i> (タネコバチの1種)	桃の種子(1)	韓 国
(病 菌)		
<i>Pseudomonas syringae</i>	レモン(2)	アメリカ
<i>Colletotrichum capsici</i>	トウガラシ(1) ピーマン(1)	インド・ 北朝鮮
(ウイルス)		
Gooseberry veinbanding virus	スグリ(1)	イギリス
Raspberry mosaic virus	キイチゴ(1)	アメリカ
Raspberry ringspot virus	チューリップ(1)	オランダ

海 外 の ニ ュ ー ス

6月のUSDA病虫害発生報告によれば、合衆国西部諸州にバッタが異常発生している。テキサス、オレゴン、サウスダコタ、ネブラスカ、ニューメキシコ、ワシントンにおいて特に被害が激しい。主要被害作物はコムギ、トウモロコシ、ダイズ、アルファルファ、オーチャード等であるが、庭の野菜が加害されているところもある。たとえば、ネブラスカでは10~16haのアルファルファ畑がまる坊主になったところもあり、ワシントンではバッタは道路にまで進出している。発生地の近辺に灌漑畑があるところでは、バッタは灌漑畑の方に移動するという。

大発生 of バッタの種と令構成は州により若干異っているが、アメリカフキバッタの仲間 *Melanoplus divittatus*, *M. sanguinipes*, *M. femurrubrum*, 及び *M. differentialis* の4種で、おおむね50%が成虫である。

7月に計上された合衆国政府、州政府及び牧場

主等の共同防除予算は、17州の総防除面積7,157,172エーカー(約290万ha)に対し、総額3,895,307ドル(約8億5千万円)であった。

異常発生を起したわけは、昨年の秋に産下されたバッタの卵が冬の間深い雪に覆われて保護され、今年の春の乾燥・温暖な気候によりふ化率、幼虫生存率が高められ、病気の発生が抑えられたためである。また、天敵が極めて少ないのも一因であろう。なお、今夏から晩秋にかけて乾燥し暖かければバッタ災害は当分の間続くと予想されている。

(害虫課、一戸文彦)

発行所 横浜植物防疫所

〒231 横浜市中区北仲通5-57
横浜農林水産合同庁舎
☎ 045(211)2299
編集責任者 井上 亨

印刷所 柏 苑 社

〒232 横浜市長南区通町1-6
☎ 045(711)5600